

令和5年
60号

ICHINOKAI VOL.60

いちいの会だより



新年あけましておめでとうございます。

総合施設長 清本 健二郎

旧年中は、当法人いちいの会の事業推進に対しまして、格別のご支援とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。地域の皆様、関係機関、家族会の皆様、また、各方面から応援を頂いている皆様方のおかげで、無事新年を迎えることができましたことに感謝申し上げます。

今年も「利用者第一の充実した支援サービス」「地域の期待への対応」「やりがいと研鑽そして笑顔の職場」を基本理念に地域に根差した福祉事業を進めてまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

この原稿を書いている11月下旬は新型コロナウイルスの第八波の始まりです。11月初旬にインフルエンザの予防接種、12月半ばには野田市、医療機関のご協力の下、オミクロン株のワクチン集団接種、職員には法人内にコロナを持ち込まないよう休務の時の過ごし方にも対策強化を重ね重ねお願いし続けて、「持ち込まない、持ち込ませない」を合言葉に感染症対策を継続しております。

その中でも利用者の方の生活がもっと安心して安全に、楽しいものになるために試行錯誤している職員に感謝し、今年も新たな生活様式の中、事業を進めてまいります。

末筆ではございますが、地域の皆様、関係各機関、各団体、ご家族の皆様、応援を頂いている皆様方のご健勝、ご多幸を祈念し新年の挨拶とさせていただきます。



●目次●

◇総合施設長挨拶.....	1
◇各事業所	
新年の挨拶.....	2,3
◇行事ギャラリー.....	4,5
◇新任職員紹介	
職員日記	
編集後記.....	6

事業所だより

～今年は何色?～



ワークショップくすのき 施設長 大谷 篤司

新型コロナウイルスの感染者は依然として減少していく様子を見ることはできませんが、経済活動は益々活発になり、コロナ前とほとんど変わらない状況になりつつあるようです。

私自身、コロナにまだ感染したことはなく、家族内で陽性者がでて患うことはありませんでした。ワクチンを接種しても副反応は全くなく、これまでもインフルエンザやノロウイルスが施設内で流行しても、患うことはなかったため、これからも感染症にかからないであろうという、何の根拠もない自負があります。

しかしながら、体力に関しては、年々衰えを痛感しています。寝てもストレッチをしても、なかなか疲れが取れません。元気を出すためにご飯をたくさん食べる。体が大きくなる。そして、体が動きにくくなる。疲れがとれない。そのようなサイクルを繰り返しているようにも思いますが…。

私のことはさておき、ワークショップくすのきでは、コロナ対策のために、事業所内で楽しめる行事を実施してきました。世間は元の生活をとり戻しつつあることから、私たちも、以前のように利用者の皆様と旅行や外出に行ける日が見えてきたのではないのでしょうか。VS コロナの時代は終わり、With コロナ時代の幕が開けました。空を見上げると、夜が明ける前の「東雲色」に染まる空が広がっているように感じました。

いちいの木相談支援センター 相談支援専門員 中村 成彦

新型コロナウイルスも落ち着かず、感染者数も増えたり減ったりを繰り返している現状ですが、会議等の開催が増えてきています。オンラインでの会議もありますが、対面式の会議も増えてきており、会議時に各関係機関の方と話しをする機会も増えていきます。

昨年より野田市内に、新しい相談支援事業所が開設されています。当事業所から、新しい相談事業所に移行する利用者さんもいます。相談支援事業所と同様にグループホームも野田市内に増えてきていますが、野田市内在住の利用者さんだけでなく、他市・他県からの入居される方が多くいます。そのため、日中活動場所が定員オーバーになってきています。グループホームは増えていますが、日中活動場所は増えていない現状です。これから先2年間で9事業所が野田市内にグループホームを開設する予定との話もあります。

今年度、サービス管理責任者更新研修や、相談支援専門員更新研修を受講していますが、以前の研修内容と違ってきています。スーパービジョンに関する研修が両研修共にあり、国や県が力を入れていると思います。また、どちらも職員が1人で考え込んでしまうことなく、周囲と連携をとれるようにする研修を行っており、職員の福祉離れに配慮した内容となっていました。

これから先、野田市内にも更に多くの事業所が出来、障害を持つ方の選択肢が増えることで未来が明るい「太陽」のように輝いてくれることを願い、「黄色」にさせていただきます。

くすのき苑 副施設長 戸辺 泰介

「色を知る年齢か!」というのは、格闘家・範馬勇次郎氏の言ですが、色の認識について調べてみると興味深い事例がいくつも出てきます。

例えば、ある国の人たちは、我々からすれば見分けがつかないような微妙な違いの緑色をそれぞれ別の色として名付け、区別ができるそうです。それはその国にとって緑色が生活や文化に深く結びついており、細やかに分類し取り扱う必要があったからだといわれています。

日本においても、最古の染料の一つである「藍色」には、染め方や染まる段階に応じて48種類に及ぶ和名が存在するそうです。

私達が普段大雑把に「赤」や「青」と捉えている色についても、立場や見方が違えば、そこからたくさん情報や歴史を見出すことができるでしょう。

我々の仕事に置き換えるなら、利用者の皆様に対して、一面的に判断するのではなく、その背景やわずかな変化まで目を配り、きめ細やかに対応すべき、といったところでしょうか。利用者の皆様それぞれの色を見極められる一年になりますように。

グループホーム 生活支援係長 金 隆史

依然として、コロナウイルスに対する配慮が欠かせない日々が続いております。利用者さんの生活に「ウイルスを持ち込まない」ことを目標に掲げ、日々の生活に注意しながらの1年でした。利用者さんの生活の中で外出の制限等による影響もありましたが、無事健康に1年を過ごせたことに安堵しています。さて、今回新年のあいさつにあたり、「今年は何色」というテーマの指定がありました。真っ先に思い浮かんだのが「青」です。記憶に新しい、カタールワールドカップ。ピッチ内を躍動する「サムライブルー」に連日興奮し、また、年齢や出身が違う人たちが集まり、一丸となってミッションに挑んでいく姿に、私たちの業務と一緒に感じ、応援と同時に、選手個々の役割というものに興味が湧きました。そして、そのような中で「今年は何色」というテーマ。それはやっぱり「白」です。白には地味な印象を持ちます。単色では華やかさは感じませんが、全ての色を柔らかくすることができます。日々の慌しい状況の中でも、柔らかい雰囲気とできるように努めていきたいと思えます。

中核地域生活支援センターのだネット 地域総合コーディネーター 五十嵐 孝子

昨年は新型コロナウイルス感染症に加えて戦争やミサイル発射など、不穏な1年間となりました。色で例えるなら昨年は煙たくなるような暗い灰色を思い浮かべてしまいます。そのような暗い中でも一筋の光とでもいいでしょうか、徐々に常勤の職員がのだネットに入職しました。福祉職の経験もある心強い人材です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

今年は、世界中がすっきりと晴れ渡る青い空を見られるような明るく平和な1年になって欲しいと願っています。というわけで今年の色は「青」。

そして、今年うさぎ年。長い耳をぴんと立てて(たれ耳ウサギもいますが…)利用者さん、関係機関の皆様の話をよく聞き、ぴょんぴょんとフットワーク良く動いて情報も集めます。少しでも安定した日常生活や住みやすい街づくりに貢献できればと考えています。

地域共生社会の実現に向けて、これまで培ってきた地域の絆を大切にしながら多様な相談に対して真摯に取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

行事ギャラリー

ワークショップ 秋祭り

行事の様子



1寮お楽しみ会紹介

くすのき苑の1寮では月1回のお楽しみ会と表してレクリエーションを行っています。季節に合わせたイベントや旅行やお祭りをイメージしたイベントを行い、苑内でも利用者さんが楽しみをもって過ごせるように、職員全員でアイデアを出し合っています。

ぶどう狩り・栗拾い



栗たくさん拾えるかな!?



スパランドくすのき



お風呂あがりの一杯!



新任職員紹介

ワークショップくすのき 生活支援員 佐藤 みなみ



福祉業界での経験が浅く、わからないことも多いと思いますが精一杯頑張ります。よろしくお願いします！



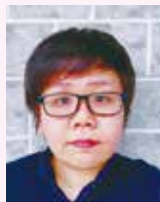
グループホームかえで 生活支援員 大橋 千草



以前からお世話になっておりましたが、9月から正職員として働かせて頂いています。

これからも皆さんが笑顔で元気に過ごせるよう努めて参ります！

中核地域生活支援センター
のだネット
相談員 福留 恵美



10月1日よりのだネットでお世話になります。福留と申します。相談職は未経験ですが、一生懸命頑張りたいと思っています。よろしくお願い致します。



職員日記

生活支援員 田嶋 剛宜

2019年の5月。妻が好きだったという事もあり、全く興味がなかったが、バラの専門店に足を運び、バラの苗を買って帰った。家の外構工事を自分で始めたこともあり、育てるのは自然と私の担当になっていた。バラを育てた経験もなく、お店で買った時に教えてもらった、「6号鉢に植え替えて、出来たつぼみをひたすらに摘んでください」を忠実に守り続け、自分が何を育てているのか忘れてしまっていた。10月を迎えたある日のこと、摘み忘れていたつぼみが一輪咲いているのを見つける。「なんて綺麗なんだ」思わずそのような言葉が頭に浮かんだ。その日を境に私はバラの世界にのめり込んでいくのである。その日から動画サイトや書籍を読み漁り、独学でバラ育成の勉強を始めた。勉強というより興味が先行して気が付けば80種類以上のバラを育てていた。育てたバラを道行く人に褒めてもらい自信もついて来たある時、この感動をくすのき苑の利用者さんや職員にも味わってもらいたいと思うようになった。苑にもバラを植え始め、5月のバラ最盛期には沢山のバラが咲いていた。私の様に興味が無かった人たちが感動してくれた事で、育てて良かったと心から感じた。そしてこれからも私はバラを育てていくと思う。



編集後記

秋と言えば柿!というくらい柿が好きなのですが、食べ過ぎると胃に石ができる柿胃石症を発症してしまうそうです。私と同じように柿好きな方は食べ過ぎに気を付けて、適度に美味しく頂きましょう。(清宮)

昔から姿勢が悪いことが気になっていて、骨盤矯正と姿勢矯正のために月1で接骨院に通うようになりました。先生に歩行時の歩き方、良い姿勢を保つための方法などを教わりました。姿勢が良くなると身体への負担が減り、見た目も綺麗になるので今後も続けていきたいと思えます。(吉原)

社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑

〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121
TEL :04-7120-6667
FAX:04-7120-6668

発行責任者 総合施設長 清本 健二郎
編集 清宮・吉原
発行日 令和5年1月吉日

